

平成26年度病害虫発生予報第2号

平成26年 5月 2日
愛 知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	県全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない	—
	ばか苗病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	県全域	前年の本田の発生量はやや多い 種子更新率は高い 5月の気温はほぼ平年並	＋ － ±
	イネミズゾウムシ	平年並	県全域	前年の発生量は平年並	±
ムギ	うどんこ病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～－
	赤かび病	平年並	県全域	4月下旬まで調査ほ場では発生を認めていない(平年並) 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～－

・留意事項

コムギ赤かび病については、本日発表の「コムギ類赤かび病情報第2号」を参考にしてください。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	県全域	3月の越年発病葉率は平年並	±
	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	3月上旬の発生量はやや少ない 5月の気温はほぼ平年並	－ ±
ナシ	黒星病	平年並	県全域	4月上旬の花そう基部の発病率は平年並 4月下旬の発病葉率は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ± ±～－
	アブラムシ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温はほぼ平年並	± ±
モモ	黒星病	やや多い	尾張地域	4月下旬の発病枝率はやや高い 5月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
	せん孔細菌病	平年並	県全域	4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～－

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	ナシヒメシンクイ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
	モモハモグリガ	やや少ない	県全域	4月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は少ない	± -
ブドウ	黒とう病	平年並	県全域	4月下旬、調査ほ場では発生を認めていない（平年並） 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	べと病	平年並	県全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
カキ	炭疽病	平年並	県全域	前年秋の発生量は平年並 5月の降水量は平年並か少ない	± ±～-
	うどんこ病	やや少ない	県全域	前年秋の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並か少ない	- ±～-
果樹共通	カメムシ類	多い	県全域	越冬世代成虫の密度は高い	+

・防除対策

〔モモ・黒星病〕

枝病斑は伝染源となるので取り除き、園外へ持ち出し処分しましょう。チオノックフロアブルやオンリーワンフロアブルなどで防除しましょう。

〔モモ・ナシヒメシンクイ〕

越冬世代成虫がウメやモモの葉に産卵し、第1世代幼虫は新梢の芯折れを引き起こします。芯折れを確認したら早めに切り取り、園外に持ち出し処分しましょう。サイアノックス水和剤やモスピラン水溶剤などで防除しましょう。

〔果樹共通・カメムシ類〕

幸田町に設置したチャバネアオカメムシのフェロモントラップでは、4月下旬から誘殺され始めましたが、果樹園への飛来は確認されていません。例年、5月中旬頃から果樹園への飛来が始まり、特に夜温が20℃以上で風がない蒸し暑い夜に飛来数が急増しますので、天気予報を参考に防除を徹底しましょう。なお、防除対策は、平成26年4月4日発表の「平成26年度病害虫発生予察注意報第1号」を参照してください。

・留意事項

ナシ黒星病は、昨年発生が多かったほ場では、今後、気象条件によっては発生量の増加が懸念されます。天候に留意して、防除時期を逃さないように注意しましょう。

モモのカイガラムシ類の防除適期は、有効積算温度から計算すると昨年より1日から3日早いと予測します。防除適期を逃さないように注意しましょう。詳細は、本日発表の「モモのカイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

ブドウべと病は、一旦発生した後は降水量が多いと発生量が多くなります。本病に適用のあるQoI剤（アミスター10フロアブル、ストロビードライフフロアブル及びホライズンドライフフロアブル）に対して県内では耐性菌の発生が確認されており、現在は感受性菌と

耐性菌が混在している状況です。耐性菌の比率を高めないために QoI 剤をべと病防除に使用することは控えましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	やや多い	尾張地域	4月下旬の発生量はやや多い 5月の降水量は平年並か少ない	＋ ±～－
キャベツ	コナガ	やや多い	東三河地域	4月下旬の発生量は昨年に比べて多い	＋
トマト (施設)	黄化葉巻病	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
ナス (施設)	うどんこ病	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い	＋
	ハダニ類	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	平年並	県全域	4月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	ミナミキイロアザミウマ	やや多い	県全域	4月下旬の発生量はやや多い	＋

・防除対策

[タマネギ・べと病]

尾張地域で発生がやや多い状況です。降雨で発生量が増加するため、降雨前の予防散布を徹底しましょう。薬剤の散布は収穫前日数に注意し、レーバスフロアブル、ホライズンドライフロアブルなどで防除しましょう。また、発病株及び被害残さは次作の伝染源になるので、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

[キャベツ・コナガ]

東三河地域で発生が多いほ場があります。防除対策については、平成26年4月4日発表の「コナガ情報（キャベツ）」を参照してください。

[ナス（施設）・うどんこ病]

アフエットフロアブルやストロビーフロアブルなどで防除しましょう。

[キュウリ（施設）・ミナミキイロアザミウマ]

平成26年2月4日発表の「平成25年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

・留意事項

果菜類で天敵や訪花昆虫を導入しているほ場では、それらへの薬剤の影響に注意して農薬を選定してください。

本作終盤に入り、キュウリではミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）、トマトではタバココナジラミが媒介するトマト黄化葉巻病（TYLCV）が多発しているほ場がみられます。発生ほ場では次作への病害の伝染を防ぐために、栽培終了後、植物残さをほ場外に持ち出す前に施設を密閉して、媒介虫を死滅させましょう。

花き

キク（露地）では、親株床で白さび病とアブラムシ類の発生を認めています。白さび病は、気温の上昇と降雨に伴い発生しやすくなります。多発すると防除が難しくなるため、発病葉を早めに除去するとともに、親株床から系統の異なる農薬でローテーション散布をしましょう。

今後はハダニ類やアザミウマ類が増加する時期になります。本ぽと親株床を含めた防除に努めましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台5月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目（5月3日～5月9日）は平年並または低い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：30% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に、鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。